

活動報告書

今月の主な活動

2 回目の荷受けは猛暑の影響を受けたお蚕が多く、一見立派な繭でも中で死んでしまっている農家が悲しむ結果でした。汚れていなければ中で死んでも大丈夫なんじゃないかと素人目には思っていますが、きっと糸にする工程で問題が発生するんでしょう。暑さで大きくなれなかった繭も多く、飼育環境の管理も非常に厳しかったのだろーと思えます。そしてこの夏の繭は臭いが強く、同じ繭でも環境によって色々変わってしまうのであれば、均一な環境に置いた方が安定した繭が取れるのではないかという想いもよぎりますが、自然の状態で育った繭の良さというのもあるのだと思います。何を守るのか、選択の難しさを感じます。



今まで通りの環境で育てるといふことを守るのであれば、その繭を使った商品も画一的なものではなく、受注生産で数か月待ってもらふような特別な記念品の方が良いように感じますが、シルク製品にする業者が減っている状況もあり、扱ってくれる業者が生き残ってくれる、もしくは守ろうと新規で継承してくれる若手職人さんを受け入れる環境と繋がりを持てるかどうか産業界の生き残りにも影響するのではないのでしょうか。

この厳しい暑さの中でも富岡市の養蚕農家の長老達が頑張っています。暑い、だるい言う間もなくお蚕の成長を最優先で頑張っている姿に、この繭を大事にその思いを感じてくれる方々に届いてほしい。

今月はシルク製品だけでなく、富岡市のイベントへの協賛のお話も知人から来ました。地域おこしとしてその地域にすることで、富岡市に意識を向けてもらい、経済効果が出せれば巡り巡ってシルク製品や農家へも良い効果が繋がっていくと思えます。自分が製品を作ることに以上経済効果と社会的認知度向上をもたらせることが私にとっても地域おこし活動をやっている甲斐があると感じています。

